

# ブリーフインターベンションの有効性を示す エビデンス

U. S. Preventive Services Task Forces (米国予防医療専門委員会)は、2004年の報告の中で、

- ① プライマリーケアでのアルコール問題のスクリーニングは、飲酒量や飲酒パターンはアルコール依存症の診断基準は満たさないが、疾病への罹患や死亡率を高めている患者を同定できること。
- ② フォローアップを伴う行動療法的なブリーフインターベンションが、6ヶ月から12ヶ月間あるいはそれ以上の期間続く、少量から中等量の飲酒量の減少をもたらすこと。

が確認できたとして、アルコール問題のスクリーニングとブリーフインターベンションを用いた早期介入に対して、臨床での実施を推奨するBランクの評価を与えた。